

ニセコ町マルチプル・デマンド交通化事業 ～「町内循環バス交通」から「コミュニケーション・インフラ交通」への転換

概要

- ニセコ町では、町内循環バス(ふれあいシャトル)を運行しているが、乗車運賃のみで運行経費を賄えるほどの利用者はなく、その運行を維持するための費用が財政的な大きな負担となっている。ただし、当該バスは高齢者等の日常的な自由な移動を担保する足となっていることから、その維持が必要であり、コストは増やさずに利便性を向上することによる利用者の増加が求められている。
- 町内循環バスのデマンド化を図るとともに、単に「人を運ぶ道具」としてのバスではなく、「コミュニケーション・インフラ」として再構築を図り、デマンド化を活かした多目的利用を推進する。

北海道ニセコ町



事業の内容

事業内容

- 定時・定ルート運行とデマンド運行を組み合わせた先進的なマルチプル・デマンド交通化の検討
- 事業化検証を目的としたシステム設計と実証実験に係るソフト事業の実施
- 観光客のデマンドバス利用の促進による利用者の増加とCO2排出量の低減調査
- 高齢者等世帯への買物商品配達手段としてのデマンドバスの多目的利用の検討
- 自給エネルギーのデマンド交通への利用の検討

ポイント

- 観光デマンドの実証実験による新しい運行手法の模索
- 複合型デマンド交通のシュミレーション
- デマンド化による低炭素化交通システム導入の模索

事業の成果

- ニセコ町地域交通の現状の把握と町民の意向が明確化された。
- 生活路線において、デマンドバスの実証実験により利用者掘り起こしが図られ、前年同期間で1.59倍に増加した。
- 観光デマンドの実証実験により、観光客の地域交通ニーズの把握ができ、運行手法の方向性を導き出した。
- 実証実験により現状のバス路線からのデマンドバスに転換することにより、19t-CO2削減できることがわかり、CO2排出量の削減の方向性を見出した。
- デマンドバスによる買い物商品宅配事業の可能性について導き出した。
- ニセコ町地域公共交通の方向性とデマンドバスへの転換の方向性を樹立できた。